

## 農学生命科学研究科全体の取組について

中西 友子

東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター特任教授

福島原子力発電所事故からはや5年が過ぎ、6年目を迎えようとしています。2011年から始まった私たちの福島に関する調査研究の報告会も今回で第13回目を開催することになりました。

私たち農学部の教員は、事故直後から放射能の農業に関する影響の調査研究を続けて参りましたが、自然相手の研究でもあり、季節変化を考えると、年1回データが取得できるのが一巡と考えますと、データはまだ4-5回分が集まったにすぎません。環境中の放射能がどの程度かを見極めることよりも、その放射性物質がどのように動いているかを知ることが、最も大切な情報のひとつだからです。環境中の放射能動態を見極めて将来予測を立てるためにも、長期に渡るデータ取得が必要です。

ただ、食品については、福島県の精力的な放射能モニタリングシステムのお陰で、放射能に汚染した野菜、穀物などは全く市場に出荷されませんでした。また農地で生育する作物中の放射能の値も非常に低くなっています。その一番の原因は土壌にあります。毎回申し上げているのですが、事故現場から飛んできた放射性セシウムは土壌にしっかり吸着し動かなくなりました。例えば、イネの場合は土壌に吸着した放射性セシウムをほとんど吸収することができず、安全なコメが生産されています。先回はこの土壌にターゲットをあてて現在までに判ってきたことをご報告しました。

今回は私たちに関係する作物や果樹、つまり植物に焦点を当てて報告会を企画しました。

私共は福島事故に関連する調査研究の結果を纏めて以下の3冊の本の形で出版しています。このうち英語版の2冊目は、昨年2月に電子出版され、成書は昨年末に私共のところへ届いたばかりです。電子出版した本は以下のサイトから無料でダウンロードできますのでお読みいただければ幸いです。1冊目は既に70,000回ダウンロードされました。

Agricultural Implications of Fukushima Nuclear Accident (Springer 社)

1冊目(2013) : <http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54328-2/page/1>

2冊目(2016) : <http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-55828-6>

「土壌汚染」(2013) : NHKブックス も合わせてお読みいただければ幸いです。

私たちはこれからも継続的に放射能汚染についての調査研究を続けていくつもりですので、何卒宜しくお願いいたします。